

2024年8月20日

各 位

会 社 名 株式会社オリエンタルコンサルタンツホールディングス
代表者名 代表取締役社長 野 崎 秀 則
(東証スタンダード市場・コード番号2498)
問合せ先 取締役統括本部長 森 田 信 彦
TEL 03-6311-6641

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 下水道展'24 東京に「アイレベルでみる動くハザードマップ」を 出展しました

当社グループの基幹会社である株式会社オリエンタルコンサルタンツ（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）は、2024年7月30日（火）～8月2日（金）開催の「下水道展'24東京」に、株式会社オリエンタルコンサルタンツホールディングスのグループ企業（株式会社中央設計技術研究所、株式会社リサーチアンドソリューション）と共に参加しました。

同社は、基礎自治体から“2次元”の内水浸水想定区域図及び内水ハザードマップ作成業務を受託しており、今回の出展において、「アイレベルでみる動くハザードマップ」を提案しました。「アイレベルでみる動くハザードマップ」は、従来の“2次元”で作成された内水浸水想定区域図と3D都市モデルを組み合わせ、さらに、時間の経過とともに拡大する浸水範囲の広がりを見視覚化することで、防災教育等の場面で活用する新たなツールとして開発しました。

「アイレベルでみる動くハザードマップ」は、2次元のシミュレーション結果を3D都市モデル上に表示するだけでなく、一般市民が良く知られているランドマーク建築物や個人的に気になる任意の建築物の周辺の浸水状況の変化を地上に立った人の目線（アイレベル）で臨場感をもって確認できる画像を表示できます。当日は、基礎自治体、メーカー、金融機関、報道機関等に会場いただき、「アイレベルでみる動くハザードマップ」を多くの方に体験いただく良い機会となりました。

今後の機能向上により、避難経路検討や学校防災等の場面で活用することで、防災意識の醸成や、平常時から考える事前防災の一環である自助の促進に寄与することが期待でき、さらに、継続した豪雨時における内水氾濫後の“外水氾濫”の発生による段階的な被害拡大をアイレベルで認識することも可能であることを紹介しました。

同社は、これからもゲリラ豪雨や、台風等から引き起こされる水災害に対して、ハード・ソフトの両面から対策を提案し、地域・国土の強靱化、流域治水の自分ごと化に向けた防災行政、防災教育の支援を行ってまいります。

<本資料に関するお問い合わせ先>
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011
URL : <https://www.oriconsul.com/>
統括本部 伊藤、丸山、門司

【当日展示したパネル】

アイレベルでみる動くハザードマップ

ORIONSL

「アイレベルでみる動くハザードマップ」は、従来の「2次元」で作成された内水浸水想定区域図と3D都市モデルを組み合わせ、さらに設置場所による浸水の広がりを見える化することで、防災教育などの場面で活躍するツールを目指し作成しました。

Q従来の内水浸水想定

- ① 地表面、管さよ、マンホール、ポンプ、貯留施設などの情報を基にモデルを構築します。
- ② シミュレーションを行う降雨（ハイドログラフ）を設定し、構築したモデルに雨を降らせず。
- ③ 結果はメッシュごとの浸水深として出力され、色を分けることで、平面的に浸水リスクを把握します。



Qアイレベルでみる動くハザードマップ

「アイレベルでみる動くハザードマップ」では、2次元のシミュレーション結果を3D都市モデル上に表示するだけでなく、ランドマークとなる建物などの任意の点に対して、シミュレーションの結果を基にした、アイレベル（一人称視点）でのリスクの確認をすることができます。



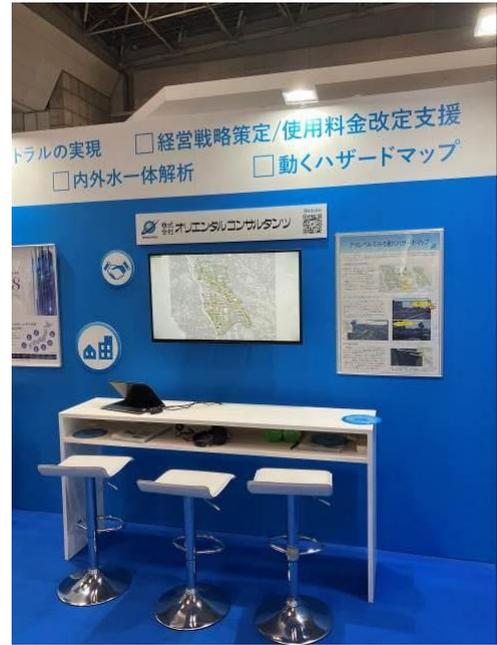
Q今後の展開

今回紹介した「アイレベルでみる動くハザードマップ」は、避難経路の設定や学校防災などの場面で用いることで、防災意識の醸成や、平常時から考える事前防災の一環である自動の促進に対して期待できます。また、継続した雨を想定した場合、内水氾濫の後は「外水氾濫」が発生する可能性があります。段階的に大きくなる被害をアイレベルで認識することも可能です。



出典：利根川水系利根川（県央区画）洪水浸水想定区域図（想定最大規模）作成主体：群馬県県土整備部河川課

【展示状況】



【当日の様子】



以上